

◇ 教員免許更新講習シラバス(選択必修領域分)

講座内容についての問い合わせ先…koushin@nara-edu.ac.jp(奈良教育大学)

講習名		主な受講対象者	時間	講習形態
教育改革の動向と様々な問題に対する組織的対応の必要性(幼稚園)		幼稚園教諭	6H	講義・演習
日程	定員	講師名(所属・職名等)		
平成30年7月1日(日)	75人	横山 真貴子(奈良教育大学・教授) 津本 幸雄(奈良大学・非常勤講師) 廣瀬 聡弥(奈良教育大学・准教授) 佐川 早季子(奈良教育大学・准教授)		
会場				
奈良教育大学				
【講習の概要】				
項目	・学習指導要領の改訂の動向等 ・様々な問題に対する組織的対応の必要性			
内容	社会状況の変化に伴い、学校教育に対する関心も高まり、学校が果たさなければならない役割と学校への期待は大きくなっている。講習では、幼稚園教育要領の改訂、国の審議会の状況等教育改革の主要な動向について考察する。また、学校の現状を踏まえ、学校経営、組織の在り方、安全確保、学校と家庭・地域社会との連携・協力等に関わる様々な問題に対する組織的対応の必要性について考察する。			
【小テーマ①】	項目	教育改革の動向と様々な問題に対する組織的対応の必要性		(担当講師:横山 真貴子)
	内容	○幼稚園教育要領改訂の動向等		
講習形態	講義形式			
講習内容	激動の社会を生き抜く子どもたちの育成のために、教育の在り方も、今、大きく変わろうとしている。本講習では、平成30年度施行の「幼稚園教育要領」の改訂のポイントを把握した上で、特に「幼児期の教育と小学校教育の接続」の観点から、幼児期に育みたい資質・能力の育成や教育課程の編成について、実践に即して検討する。			
到達目標・確認指標	幼稚園教育要領の改訂の動向等について理解している。幼稚園教育要領の改訂など教育課程の編成に係る動向等について理解し、説明することができるか。			
キーワード	育成すべき資質・能力、アクティブ・ラーニング、カリキュラム・マネジメント、幼小接続			
【小テーマ②】	項目	教育改革の動向と様々な問題に対する組織的対応の必要性		(担当講師:津本 幸雄)
	内容	○幼稚園教育要領改訂の動向等		
講習形態	講義形式			
講習内容	社会の変化や子どもの育ちの変化の中、幼稚園教育に対する関心は益々高まっている。本講習では、中央教育審議会の審議・答申等を踏まえながら、教育改革について考察する。また、学校(園)経営、学校評価、連携等に言及しながら、幼稚園の目的等についても考察する。			
到達目標・確認指標	教育改革の動向の概要を理解している。教育改革の動向の概要を理解し、説明することができるか。			
キーワード	教育改革、連携、発達や学びの連続			
【小テーマ③】	項目	教育改革の動向と様々な問題に対する組織的対応の必要性		(担当講師:廣瀬 聡弥)
	内容	○幼稚園における様々な問題に対する組織的対応の必要性		
講習形態	講義形式・演習形式			
講習内容	幼稚園において、子どもは様々な遊びや生活をし、そこには絶えず危険が存在する。しかし、それらを一切取り除くことは不可能である。さらには、例えば遊びのように、子どもが様々な環境を知覚し、関わり、挑戦を繰り返しながら、自らの壁を乗り越え、身体的、精神的、社会的に発達することが期待できる。つまり、危険を伴わない遊びは、子どもにとって、あまりおもしろい遊びとは言えないのかも知れない。そこで、遊びや生活における危険を理解し、教育的効果を踏まえながら安全を確保するための手立てについて検討する。			
到達目標・確認指標	幼稚園における危機管理の必要性について、理解している。子どもの安全確保のための具体的な取組に対する組織的対応の必要性について、近年の状況を踏まえ理解し、説明することができるか。			
キーワード	危機管理、安全確保、子どもの行動			
【小テーマ④】	項目	教育改革の動向と様々な問題に対する組織的対応の必要性		(担当講師:佐川 早季子)
	内容	○幼稚園における様々な問題に対する組織的対応の必要性		
講習形態	講義形式・演習形式			
講習内容	幼児教育施設における危機管理上の課題を明確にし、具体策を検討する。安全指導と安全管理等、組織的対応が必要とされる問題について、演習形式でのケース・スタディを通して考察を深める。			
到達目標・確認指標	様々な問題に対する組織的対応の必要性について理解している。様々な問題に対する組織的対応の必要性について、幼稚園内外での自らの役割と関連付けながら理解し、説明することができるか。			
キーワード	保育の質の向上、園の保育力、園内研修、家庭・地域などとの連携			
試験方法	各講習の最後に10分程度の筆記試験を行う。			
成績評価の方法・基準等	各講習25点満点。総点で60点以上を合格とする。			